令和５年度
インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム

活動報告資料

活動報告①：自治体訪問活動

福島県：令和５年５月１５日、１６日
山形県：令和５年８月２４日、２５日

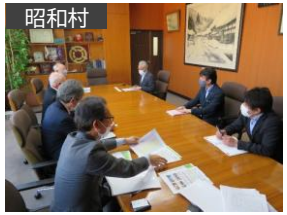
○　東北６県の自治体を訪問し、首長及びインフラメンテナンス担当者との意見交換を実施しました。
○　当フォーラムの目指す理念の普及・啓発や国民会議への入会を呼び掛けるとともに、自治体の抱える課題について、活発な意見交換を行いました。

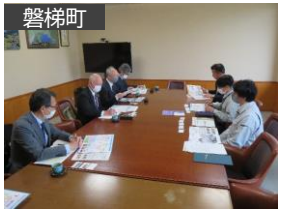
福島県：令和５年５月１５日、１６日

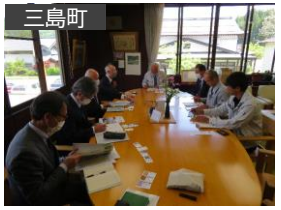
■ **参加メンバー**
石川フォーラムリーダー、遠藤企画委員長、後藤企画委員
事務局支援（東北地方整備局）

■ **訪問自治体**
（１日目）飯舘村、川俣町、二本松市、磐梯町
（２日目）昭和村、三島町、柳津町、西会津町

■ **訪問後の自治体参画状況**　１００％（全訪問自治体参画）







＜意見交換時の主なご意見＞

- 専門家がいない中で、多くのインフラを抱えているので管理が困難である。
- 現場のニーズをよく分かっているのはやはり地元の企業である。官民連携が重要な時代であると強く感じている。
- 自治体はインフラメンテナンスに関して多くの課題を抱えており、その情報を共有する場所は重要であると感じた。
- マッチングイベント等の場はまさに課題共有できる良い場と感じた。

山形県：令和５年８月２４日、２５日

■ **参加メンバー**
石川フォーラムリーダー、遠藤企画委員長、今野企画委員
事務局支援（東北地方整備局）

■ **訪問自治体**
（１日目）山形市、上山市、朝日町、寒河江市、鮭川村
（２日目）遊佐町、酒田市、庄内町、鶴岡市、山形県

■ **訪問後の自治体参画状況**　１００％（全訪問自治体参画）

＜意見交換時の主なご意見＞

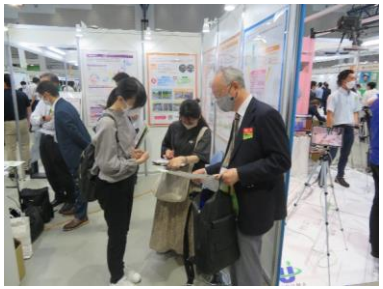
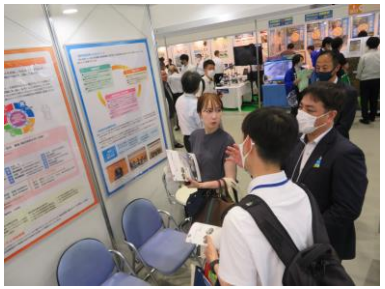
- インフラメンテナンスはすべての自治体にとって大きな課題であり、しっかり予算を確保しないといけない。
- 新しい技術を導入しながら低予算で効率的に仕事をしていくとともに、地元に技術を落とし人材の育成をしたい。
- このような組織があることを初めて知った。是非この枠組みを活用して、インフラメンテナンスに向け勉強していきたい。

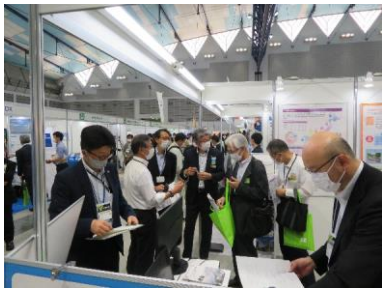
活動報告②：ＥＥ東北’２３出展

○　インフラメンテナンス国民会議東北フォーラムとして、インフラメンテナンスの重要性やフォーラム活動の周知のため、ＥＥ東北’にブース出展を行いました。
○　ブース来場者は、主に東北地方で従事する建設関係企業や官公庁、学生が多く、昨年度に引き続き多数ご来場いただきました。
○　インフラメンテナンス国民会議に関するアンケート調査では、国民会議の認知度前年度より向上しており、引き続き、ＰＲ活動等に取り組みます。

ＥＥ東北’２３出展概要

▲ブース出展の様子



▲行政関係、一般企業関係、学生の方々へ説明を行いました。



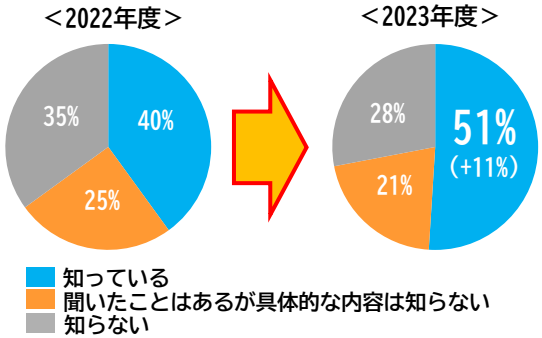
▲インフラメンテナンス国民会議の紹介や東北フォーラムの活動内容について、広く周知活動を行いました。

＜イベント概要＞

日　時：令和５年６月７日（水）、８日（木）
場　所：夢メッセみやぎ
来場数：約１５０名（アンケート回収数）

＜アンケート結果＞

インフラメンテナンス国民会議を知っていますか？



※アンケート調査結果より

＜ブース来場者からの主なご意見＞

- 市町村と企業とのWin-Winの関係を築くとても良い枠組みだと思う。（行政）
- 初めて聞く内容だったがメンテナンスの大切さを学ぶいい機会となった。（行政）
- 会議自体を知らなかったので周知活動をもっと行って欲しい。（行政）
- メンテナンスの時代が加速するので、各界が連携して頑張って欲しい。（企業）
- 橋梁補修・トンネル補修のニーズについてどのような声があるものなのか知りたい。（企業）
- 予算の確保が重要であり、自治体をどのように支援していくのかがポイントだと思っている。（企業）

活動報告③：実証実験（第２号案件）

○　道路管理者が抱えるインフラの維持管理に関する課題解決及び、インフラメンテナンス技術の普及拡大に向け、東北地方整備局 東北技術事務所とインフラメンテナンス国民会議東北フォーラムが連携し、「境界ブロック目地部等の防草技術」の実証実験を開催しました。
○　当日は、 ９種類のシーズの比較施工を行い、行政会員、関係者等合わせて約８０名の方々に参加いただきました。
○　比較施工の結果については、今後、東北技術事務所構内において、継続的に展示紹介・効果検証し、情報を発信していく予定です。

実証実験（第２号案件）概要

＜実証実験概要＞

日　時：令和５年１０月２５日（水）
場　所：東北地方整備局 東北技術事務所構内
来場数：約８０名

＜プログラム＞

１.開会挨拶
東北フォーラムリーダー　石川雅美

２.フィールド提供者　挨拶
東北技術事務所長　高橋 秀典

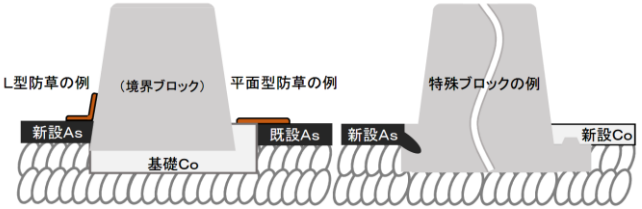
３.シーズ技術の概要説明・施工実演
①小泉製麻㈱「目地バール工法」
②㈱白崎コーポレーション「目地バリシートシリーズ」
③谷口産業㈱「目地プロテクトシート」
④ウィードコート工法協会「ウィードコート工法」
⑤シンレキ工業㈱「ボーソーシールシリーズ」
⑥早川ゴム㈱「草ゼロプレート」
⑦全国防草ブロック工業会「防草ブロック」
⑧日本雑草防止工法研究会「雑草防止工法」
⑨松岡コンクリート工業㈱「防草機能付きCo2次製品」

４.閉会挨拶
東北フォーラム　企画委員長　遠藤敏雄

○参加自治体
青森県 八戸市、宮城県 富谷市、宮城県 七ヶ浜町
宮城県 涌谷町

＜防草技術の効果（例）＞

＜防草技術の施工イメージ＞



▲アスファルトやコンクリート舗装と境界ブロックの境に防草シート等を接着・塗布する技術や特殊ブロックを使用する。

▲施工実演の様子

▲東北技術事務所で、施工概要を掲載した看板を設置し、技術展示を行っています。

▲高橋東北技術事務所長挨拶

▲石川リーダー挨拶

実証実験の施工実演の動画は、東北フォーラムのＨＰで公表しています！

インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム　検索

＜ブース来場者からの主なご意見＞

- 防草技術について、資料で見たことはあったが、実際に施工状況や製品を見てみることで各施工方法の特徴をよく理解することできた。
- 除草技術の解説や施工実演を見学でき、今後の維持管理業務の参考となった。

活動報告④：マッチングイベントin仙台

日　時：令和５年７月１３日（木）
場　所：仙台国際センター３階
来場数：約１５０名

○　東北の行政会員が抱えるインフラの維持管理に関する課題や悩み（ニーズ）などの解決の糸口とすべく、企業が所有する技術（シーズ）などを紹介するマッチングイベントを対面・オンライン併用方式で開催しました！（約150名参加）
○　東北地方整備局 東北道路メンテナンスセンター 石津センター長による、道路メンテナンスについての講演や、行政会員から寄せられたニーズに応える形で、７件のシーズを紹介・マッチングし、活発な意見交換が行われました。

マッチングイベントin仙台概要

▲開会挨拶
石川フォーラムリーダー

▲講演
「道路メンテナンスを巡る最近の話題」
石津東北道路メンテナンスセンター長

▲課題（ニーズ）発表
福島県　郡山市

▲技術（シーズ）紹介
合計７社からシーズを紹介

▲閉会挨拶
遠藤企画委員長

行政会員が抱える課題（ニーズ）

1）道路の除草対策を効率的に行いたい。

2）安価で効率的な道路の舗装修繕技術を知りたい。

企業からの技術（シーズ）紹介

1）道路除草対策の効率化
ケルヒャージャパン（株）、
ウィードコート工法境協会、
全国防草ブロック工業会

2）道路の舗装修繕
前田道路（株）、仙舗建設（株）、
全国パラボラ工法協会、
（株）坂内セメント工業所

▲会場の様子（対面参加：約50名）

▲web併用で生配信

▲紹介された技術に対しての質疑応答

＜参加者からの主なご意見＞

- 講演では、道路メンテナンスをめぐる最近の話題について、非常に分かりやすく、これからの課題がまだまだあると思いました。
- 産学官を問わないニーズとシーズのマッチングは面白い取組みだと思いました。
- 今回のシーズは、SDGsへ配慮された環境に優しいものも有り時代にマッチしたものであると感心させられました。
- 科学技術の進歩により新たな工法が開発されていると感じた。しかし、それらは高価である場合が多く問題が解決できる確証がないことが多いため、費用に見合った効果の検証が非常に重要であると感じた。

活動報告⑤：マッチングイベントin山形

日　時：令和５年１２月１日（金）
場　所：山形市民会館 小ホール
来場数：約２２０名

○　東北の行政会員が抱えるインフラの維持管理に関する課題や悩み（ニーズ）などの解決の糸口とすべく、企業が所有する技術（シーズ）などを紹介するマッチングイベントを対面・オンライン併用方式で開催しました！
○　今回のイベントは、初の山形県内での開催であり、参加者数が２００名を超え、過去最大規模の開催となりました。
○　イベントでは、先進的なインフラメンテナンスの取組を行っている南陽市 建設課による講演や、行政会員から寄せられたニーズに応える形で、橋梁点検の効率化や道路施設の状況確認などに関する９件のシーズを紹介・マッチングしました。

マッチングイベントin山形概要

▲開会挨拶
石川フォーラムリーダー

▲講演「橋梁点検及び補修について」
南陽市 建設課

▲課題（ニーズ）発表
山形市 都市整備課

▲技術（シーズ）紹介
合計９社からシーズを紹介

▲閉会挨拶
遠藤企画委員長

行政会員が抱える課題（ニーズ）

1）新技術を活用して、橋梁点検を効率よく安価に行いたい。

2）舗装等の道路施設の点検を効率的におこなう技術を知りたい。

3）下水道圧送管の効率的かつ安価な点検・診断方法を知りたい。

企業からの技術（シーズ）紹介

1）橋梁点検の効率化
コニカミノルタ（株）、ジオ・サーチ（株）
DataLabs（株）、首都高技術（株）
ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ（株）、新和設計（株）

2）道路施設の状況確認
JIPテクノサイエンス（株）、ニチレキ（株）

3）下水道圧送管の点検
（株）クボタ

▲会場の様子（対面参加：約110名）

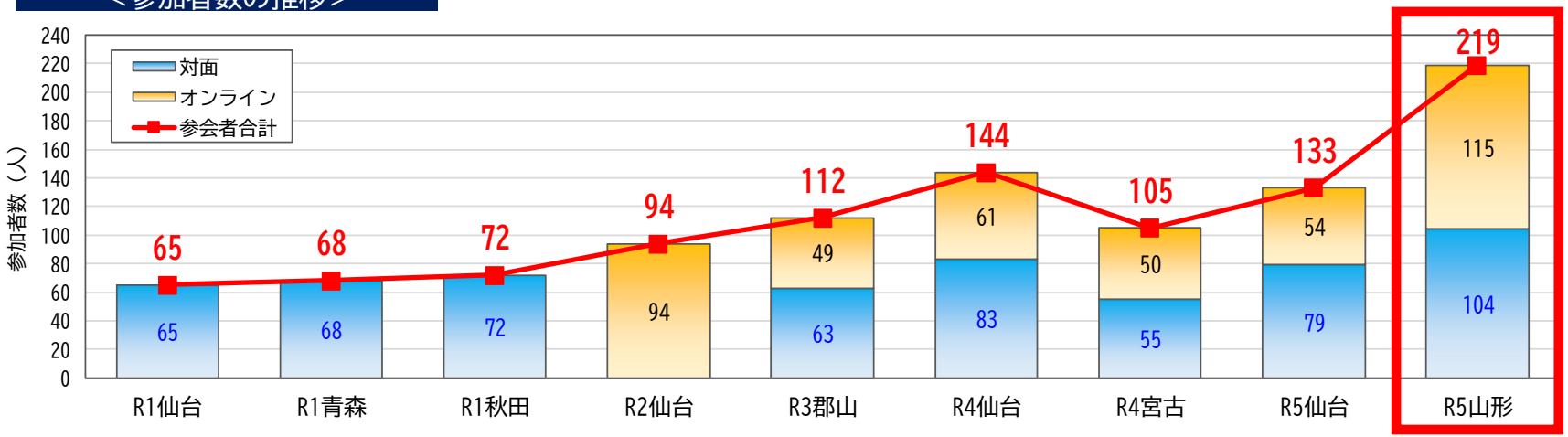
▲紹介された技術に対しての質疑応答

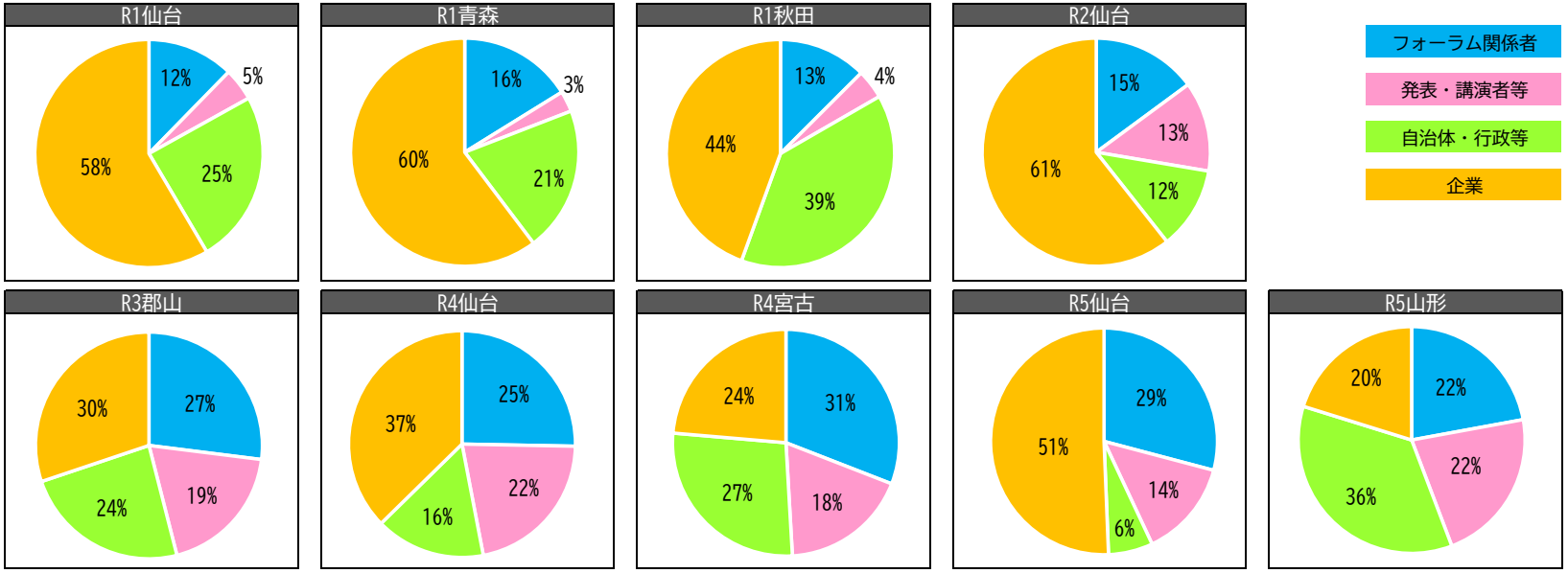
＜参加者からの主なご意見＞

- 技術者の不足や育成、建設投資の大幅な向上が見込めない状況の中、今後は、いかに低予算で精度が高く、効率が良い技術が求められるのだと改めて感じた。
- 発注者、受注者、開発者等が一同に介して集まるイベントは中々ないため、非常に有意義であった。
- 日頃業務で活用している技術もあったが、改めて開発の経緯や機能の説明を直接聞くことができ、技術の利用にあたっての展開を考えるよいきっかけとなった。
- 対面参加であったため、実際の技術の大きさ等を体感でき参考になった

（参考）マッチングイベント参加者数の推移

＜参加者数の推移＞



※参加者には、東北フォーラム参加者を含む

＜対面参加者の所属割合＞